

入学者のことば

入学者の言葉

歯学科1年 鈴木 兼一郎



僕がこの新潟大学に入学してから、思ったことを書きたいと思います。まず新潟が意外に都会だったという事です。新潟駅周辺がこんなにも都会だったとは思いませんでした。

自分は福島県出身で、田舎での生活しか経験したことがないのですが、新潟がこんなにも都会だとは思ってもみなかったので、大学生でこんな都会の雰囲気味わえてとても嬉しく思っています。今は五十嵐に住んでいますが、2年生からは旭町に引っ越す予定なので、その時はさらに都会の空気が味わえると思うと楽しみでなりません。6年間新潟の都会の生活を楽みたいです。

なんで新潟大学歯学部に入学することを希望したかということについて書きたいと思います。人生において食べるという行為はとても重要なことで、誰でも楽しく食べる権利があると思います。歯に痛みを感じたり、歯がなかつたりすると、楽しく食事をすることができません。歯科医療に携わることで、自分は楽しく食事ができない人々を助けたいです。そして、みんながおいしく物を食べるようになってほしいと思いました。これが自分が歯学部に入学した理由です。

最後にこれからの生活について述べたいと思います。まだ、1年の半分しか過ごしていませんが、2年生からは専門科目が始まります。部活の先輩方にいろいろとこれからの授業の話や聞くと、とても好奇心がわくと同時に不安にもなります。おそらく歯科に関する知識がないことから不安になるのだと思います。2年生になるまで、あと半年です。自分にはまだ歯科の知識がありませんが、

これから残りの5年間で歯科の知識を学び、自分の治療に自信がもてるような歯科医師になれるようにしたいです。そして困っている人たちの役に立てたいと思います。こんなことを意識しながら、残りの大学生活も楽しみたいと思います。

新潟大学歯学部に入学して

歯学科1年 金井 梢



新潟大学に入学して早4ヶ月。思い起こせば、なじみ深い故郷から離れ、新しい土地で一人暮らしを始め、新しい友人たちに囲まれながら過ごしたこの4ヶ月は、今までにない程濃く刺激的なものでした。海なし県で育ったため、新潟に引っ越してきた当初海が見える景色に興奮し、子供のようにしゃいだことも遠い昔のことのように感じられます。最近では一人暮らしの狭い部屋で高い湿気と闘いながら、この土地で何とか生活しています。

入学してすぐ始まった早期臨床実習では、真新しい白衣を着て緊張しながら毎回病院に出ています。病院に一步出れば、この新潟大学歯学部に入学したての私でさえ医療人として見なされるため、身なりや態度などの全てをきちんとした意識を持って気をつけなければならないと言うことをこの実習を通して実感しました。

部活はテニス部に入りました。先輩方がとてもいい人ばかりで、私はいつも楽しく部活に参加しています。初心者の私は、今はまだラケットを振っているのか、ラケットに振られているのか分からない状況ですが、体を動かすことは良いストレス発散になりますし、先輩方と共にテニスをし、お話をするのが楽しくて仕方ありません。

歯学部は一学年全部で60人、歯学科のみなら40人ととても小さなコミュニティであるというのが大きな特徴であると言えます。そのため学部内の繋がりが強く、みな分け隔てなく仲が良い為、毎日を楽しく過ごしています。東京から沖縄まで様々な出身地の学生がいて、その出身地の違いから文化や言葉が違うなど、そんな発見も楽しいものです。慣れない一人暮らしや大学の仕組み、そしてテストにああでもない、こうでもないみんなまで集まって苦しむのも、大学生らしくて悪くはないと思うのです。

これから6年間学ぶ場所としてこの場所を選んだこと、共に学んでいく仲間としてこの60人と出会ったことを何かの運命だと思って今後も楽しく、時には必死に頑張っていけたらいいと思います。

口腔生命福祉学科に入学して

口腔生命福祉学科1年 遠藤 彬 華



新潟大学に入学して、4ヶ月がたち、生活にもだんだん慣れてきました。入学当初は、一人暮らしのこと、友達のこと、授業のことなど不安でいっぱいでした。入学してすぐ行われた一泊二日での歯学部の研修では、始めは気が進みませんでしたが、同じ学科の人たちと仲良くなることができ、また先生方ともお話できこれからの不安が少しなくなりました。授業の面では、大学は高校の授業と大きく異なり戸惑うことも多かったです。取りたい授業を自分でというスタイルでした。授業では毎回レポートの課題が出されるものがあり、慣れないレポートにととても苦労しました。授業の中で最も大変だったのが、早期臨床実習です。1年生は五十嵐キャンパスで一般教養を学ぶ中、この早期臨床が唯一の専門科目であり、自分は歯学部に入學したんだと実感できる授業でした。何もわからないまま病院にたち、患者様の案内や治療の見学させて頂きました。初めてのことに緊張の連続で精神、体力ともにすごく疲れました。し

かし、この実習を通して様々なことを学ぶことができ、また歯科医療従事者のお仕事の大変さを知ることができました。この実習は将来のことを考えるすごく良い機会でした。サークル活動では、先輩方は優しく接してくれ、またいろいろな学部の人たちと仲良くなることができとても楽しかったです。

今、前期のテストをなんとか終えて、1年生の大学生活も残すところあと半年となりました。この半年はあっという間だったように感じます。同じ学科の人たちは、みんなとてもいい人たちで楽しく大学生活を送ることができます。しっかりとやるべきことをやり、充実した4年間の大学生活を送っていきたいです。

口腔生命福祉学科に入学して

口腔生命福祉学科1年 田島 稜子



新潟大学に入学して4ヶ月が経ちました。この4ヶ月間は本当にあっという間で、受験生としてこの新潟大学を訪れたときのことをつい昨日のことのように思います。私は静岡県の出身で、気候も土地も全く異なる新潟での新生活に多少不安を感じていましたが、それと同時に、大学生活に対する期待と意欲が自分の中で日々増していく感覚もありました。

大学生活が始まって1番最初の授業が、大学病院で行う早期臨床実習でした。1年生になったばかりで何もわからない私には、実習がどのように進んでいくか想像もできませんでしたが、白衣を着て病院内に一歩足を踏み入れれば、いくら1年生であっても周囲からは医療従事者としてみられ、当たり前のように患者様から質問を受けたりすることもありました。初めのうちは緊張のあまり、患者様との会話もあまり上手にはできませんでしたが、何度も実習を進めていくにつれて自信が生まれ、少しずつではありますが、自分なりに考えて行動できるようになりました。この実習を

通して、人とコミュニケーションをとることの難しさを実感すると同時に、患者様から頼りにされることへの喜びや、その責任の重さを以前にも増して感じるようになりました。このように1年生のうちから現場に出て、知識と経験を積むことができるのは先生方や病院関係者の方々のおかげであり、貴重な経験をさせていただいていることにとても感謝しています。

これからの4年間は、楽しいことばかりではなく、辛いこともあると思います。しかし、同じ志を持った仲間たちと共に悩み、考えたり、互いに切磋琢磨したりすることで、自分が歯科医療の現場はもちろん、社会全体から少しでも必要とされるような人間に成長していけたらと思います。いつまでも初心を忘れず、支えてくれている家族や友人、先生方への感謝の気持ちを持ちながら、大学生活をより一層充実させていこうと思います。

入学者のことば

う蝕学分野 大 墨 竜 也



大学院生としての生活が始まって4ヶ月が経とうとして、診療と研究の両立に苦心する日々です。そんな中、ちょうどアメリカにいたときにこの原稿の依頼のメールを受けたこともあったので、アメリカで感じてきたことを書かせて頂こうと思います。7月中旬に研究の一環での渡米でこの滞在は1週間の短期でしたが、大学院入学早々の貴重で刺激的な体験をさせていただく機会に恵まれました。

研究のテーマはバイオフィルムを扱っています。そして、研究の指導をいただいている竹中先生が留学していたバイオフィルムセンターのワークショップとシンポジウムに参加するために二人でアメリカへ行ってきました。モンタナ州立大学内にある施設なのですが、周りは自然が多く(並大抵ではありません)、治安も良いところでした。シンポジウム初日のランチタイムでは日本人

はたった一人の状況で、会話を聞きうなずくのが精一杯で30分以上黙ったままというトラウマになりそうな出来事もありました。店で買い物をしたときHi, how are you doing today? などと必ず言われて、それだけでも返事に戸惑うような英語力にも関わらず、シンポジウム会場では単独行動が多く、この渡米で一番強く感じたのが英語のコミュニケーションスキルの重要性でした。伝えたいことがあっても言葉が出ないもどかしさを実感し、英語学習のモチベーションは遥かに向上したように思います。しかしながら、滞在中は出会った人にも恵まれ、こちらの話に耳を傾けてもらえ、単語の羅列のような拙い英語でも気持ちでなんとか通じるものだとうれしい場面があったことで心折れずに済みました。

そもそも大学院進学については御多分に漏れず私も学生の頃は頭にありませんでした。今思えば、きっかけは総診ライターとして竹中先生に根治症例を診ていただいたときからだったと思います。そこから臨床や研究の話を聞いたりするうちに、歯の診療室で研修医Bコースとしてお世話になり、悩んだこともありましたが、進学を決意しました。

大学院の実質化に伴って、充実した講義やコースワークなどで他分野の大学院生とも交流が続いているというのもよい刺激になっています。大学院生のうちから海外の学会参加などで、臨床、研究に国際的な視野を広く持っていきたいと思うと同時に、かつての自分では考えられなかった留学に対する興味もわいてきています。

スロースターター

口腔生命福祉学専攻 塚 田 しげみ
博士前期課程



皆様こんにちは。新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻博士前期課程に社会人入学した塚田しげみと申します。横浜生まれの横浜育ち(浜っ子)です。現在は医歯学総合病

院に勤務しています。

同期入学は私を含め4名ですが、皆さんそれぞれ仕事を持っています。4人で集まる機会がほとんど無いのが残念ですが、メールで情報提供しながらコミュニケーションを取っています。

さて、「歯学部ニュース」の原稿を書くにあたり、改めて自分自身の足跡をたどってみる事にしました。臆病者の私が突拍子もない事をして来た時半ば呆れてしまいます。歯科衛生士になって20余年、少々多面的な働き方をしてきました。

歯科診療所勤務で初めてキュレットスクレーラーを手にし、先輩歯科衛生士と講習会に参加して身に付けたSRP。臨床現場と教育現場のギャップを少しでも埋めたくて、学校に戻り学生を育てた日々。新たな課題に取り組むべく福祉施設に飛び込み、人生の大先輩方から生の尊さを学んだ貴重な時間。そして、食べる事に支障をきたす高齢者を目の当たりにし、また、歯科以外の職種の方と働く中で利用者（患者）全体を捉える目を持ちたくて、摂食・嚥下リハビリテーションと福祉を学びに新潟へ。

どの時期にも「他にやるべき事があるのでは！」という、身の丈以上の意欲？に駆られて突き進んできたように思います。（気が短気だけかもしれませんが……）どの経験も今の私自身の糧になっているはずです。改めて見守ってくれた両親と出会った多くの方々に感謝いたします。

さて、今後の展開はいかに？……まだまだ目標が定まりませんが（序奏段階という状況ですが）、患者の食べたい願いを実現すべく日々昇進（スロースペースです）していきたいと思います。まずは、目の前の多大なレポート課題をこなす事からですが。

大学院に進学して

口腔生命福祉学専攻 米澤大輔
博士後期課程



私は、今年の春から新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻博士課程後期という漢字が30文字も並ぶ所で勉強させていただくことになりました。社会人大学院生まで付けたら手書きでは漢字を書くのが嫌になります。長野で生まれ育った私が新潟に来て早7年目を迎えています。もしも、高校生の頃の自分に「お前、新潟大学に入学して9年も学生やるんだぞ！」と言ってあげたら絶対に信じないだろうと思います。それほど勉強が嫌いだった自分ですが、新潟大学に入学して2年生以降の専門科目を学び始めて以来、歯科の分野も福祉の分野も本当に勉強していて楽しいと思うようになりました。どちらの分野においても4年間で学び終わるわけではありません。一生涯学び続けなければいけない分野であると思います。もちろん、現場に出て勉強していくことも非常に重要だと思いますが、私はもう少し学問として医学・福祉学について学びたいと思いました。博士課程前期の2年間は口腔生命福祉学教授 山崎和久先生の研究グループで何も分からない私に研究の基礎から非常に丁寧に教えていただきました。歯科の基礎分野の研究に携わることが出来、とても興味深い経験をさせていただきました。これからもさらに学んでみたいと思いますが、歯科の分野にだけ興味を持つのは口腔生命福祉学科の理念とは異なりますし、私自身福祉の分野にも興味があるため、また一から福祉について学んでいきたいと思っています。最初に少しだけ書きましたが、博士課程後期からは社会人大学院生としてお世話になっていますので、4月から新米社会人として県立の児童養護施設で働いています。毎日の業務に追われなかなか学生時代に学んだことをうまく生かせない自分にいらだつことも多いですが、日々学ぶことがたくさんあります。これからは研究に仕事に努力して自分が満足できる結果を残したいと思います。